世界のコロナ感染者、増加傾向に　共生路線は変わらず

2022/6/28 日本経済新聞

世界最大級の野外音楽祭グラストンベリー・フェスティバルを楽しむ人々（26日、英南西部サマセット）=AP

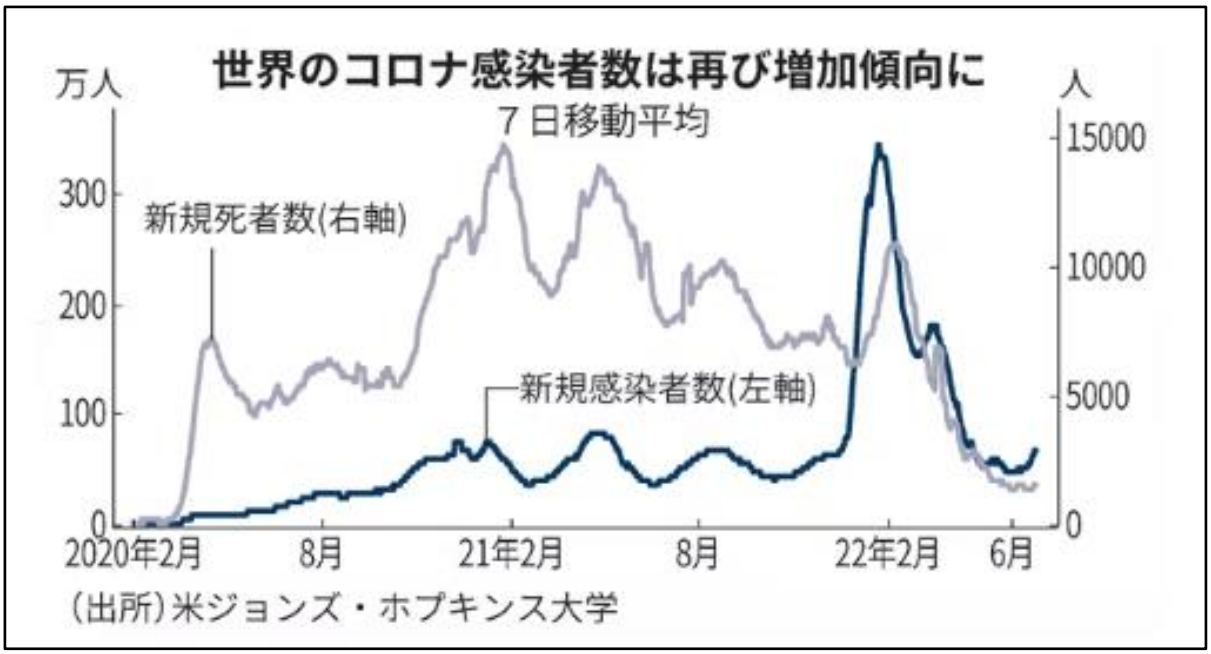
【ロンドン=佐竹実、メキシコシティ=清水孝輔】世界の新型コロナウイルスの感染者数が増え始めた。感染力が強いとされる「BA.4」などオミクロン型の派生型の流行が背景にある。ただ、現時点では死者や重症者の数に大きな変化はみられず、各国はコロナとの共生をめざす方針は変えていない。

米ジョンズ・ホプキンス大学によると、世界の新規感染者数（7日移動平均）は26日時点で約66万2千人となり、約2カ月ぶりの水準に増加した。オミクロン型の流行は1月がピークで最近は感染者数も落ち着いてきたが、各国で派生型の「BA.4」「BA.5」などが広がっている。特に増加が目立つのは欧州や中南米だ。

英国では6月に入って増加傾向が続く。英保健安全局によると、「BA.4」「BA.5」が感染者の過半を占める。陽性になっても報告する義務がないため、実際の感染者数はさらに多い可能性がある。同局の主席医療アドバイザーのスーザン・ホプキンス教授は「75歳以上の17.5%が過去6カ月以内にワクチンを接種しておらず、重症化のリスクがある」として追加接種を呼びかけている。

フランスでも感染者は増えている。ブルギニョン保健相は27日、「義務ではないが、交通機関ではマスクをつけてほしい」と述べ、警戒感をにじませた。

中南米では、メキシコやブラジルで感染者数が再び増加傾向にある。米ジョンズ・ホプキンス大によると、メキシコでは新規感染者数（7日移動平均）が25日時点で約1万4000人と1カ月前の約14倍に増えた。ブラジルでも25日時点で約4万1000人と1カ月前から約6割増えている。オミクロン型の派生型を中心に感染が広がっている。



派生型は感染力が高いとされるが、重症化率には大きな変化はなさそうだ。英政府のデータによると、人工呼吸器が必要な重症患者の数に大きな変化は見られない。むしろオミクロンが流行してからは緩やかな減少傾向にある。ロンドン中心部ではマスクをしている人はほとんどおらず、大きな問題にはなっていない。

元イングランド副主任医務官のジョナサン・バンタム氏は BBC に、「致死率ではインフルエンザに近い。インフルエンザでも数日間体調を崩して生活に支障を来すことがあるし、我々は新型コロナについてもそのような概念でとらえなくてはならない」と述べた。

ワクチン接種が進み、重症化が抑えられている面もある。メキシコでは 12 歳以上の 86%、18 歳以上の 91%がワクチンを少なくとも 1 回接種している。18 歳以上でワクチンを完全に接種した人のうち 66%は追加接種（ブースター接種）を終えている。

オミクロン型が流行してから重症化率は下がり、各国は手探りながらも通常の暮らしに戻そうとしている。米国は 12 日から、入国前の陰性証明の提示を不要とした。ニューヨーク市の劇場街ブロードウェーは 7 月から観客のマスク着用義務を解除する。

欧米ではすでに多くの人が感染を経験しているため、新型コロナへの警戒感が薄れている。ただ、今後の爆発的な増加の懸念は捨てきれないほか、ワクチンの効果は時間とともに低下するとされる。政府や専門家は派生型の重症化率を見極めるため、死者や重症者のデータを注意深く見守っている。